

豪ドル、鉄鉱石・エネルギー価格に注目

- ◆豪ドル、鉄鉱石価格やエネルギー価格の動向で神経質な動きか
- ◆豪ドル、国外では中国恒大集団、国内では雇用統計に注目
- ◆ZAR、インフレ下の中で発表される小売売上高に要注目

予想レンジ

豪ドル円 78.00-82.00 円

南ア・ランド円 7.20-7.70 円

10月11日週の展望

豪ドルは神経質な値動きとなるか。今週は中国市場が国慶節のため7日まで休場だった。8日は休場明けとなっているが、市場流動性を含め本格的な動きは来週からになるだろう。その中で注目されるのは恒大集団の問題がどのような展開を見せるかだ。豪州と中国の関係はかつてのように蜜月ではなく、現在は反目しあっている。しかしながら、いまだに豪州は対中輸出が巨大であることは変わらない。今週発表された8月の豪貿易収支では、鉄鉱石の輸出が9.7%減少した。中国恒大集団の問題が袋小路に入り、更に他の不動産会社などにも影響を与えると、鉄鉱石需要の弱まりとともに鉄鉱石価格の下落が予想され、豪ドル相場に影響を与えそうだ。

鉄鉱石以外にもエネルギー価格の値動きにも注目。今週に入り石油輸出国機構(OPEC)プラスで更なる増産がなかったことで、原油先物価格が2014年以来の水準まで上昇した。上述の8月豪貿易収支では、石炭の輸出が12.1%上昇している。鉄鉱石ほどは豪州経済への影響は大きくないが、中国は今後冬季に入ることによって石炭需要がさらに高まれば、豪ドルの一定の支えにはなるか。

豪州国内では、14日に発表される雇用統計に注目。今週行われた豪準備銀行(RBA)の理事会で「完全雇用への復帰と目標と一致するインフレを達成するために、非常に支援的な金融条件を維持することをコミット」と声明で発表されたが、雇用情勢の動きは引き続きRBAにとっては重要指標だ。なお、同日14日にデベルRBA副総裁の講演も予定されている。

南アフリカ・ランド(ZAR)はもみ合いか。国慶節明けで中国恒大集団の動向が注目される。デフォルトが避けられた場合でも、中国経済の停滞を予測する声も多い。コモディティ価格がこれまでのような大きな上げトレンドに戻るのが難しい状況になってくれば、ZARの抑えになる。ただ、この4カ月続けて南ア準備銀行(SARB)の目標中心値を上回っているインフレ率は、原油価格の高騰を受けて、さらに進む可能性も出てきている。景気低迷の中でインフレとなるスタグフレーションに陥る危険もあり、13日に発表される8月の小売売上高には注目している。

10月4日週の回顧

豪ドルは小幅に上昇した。週前半は中国が国慶節で休場だったことで神経質ながらも狭いレンジ取引となった。しかしながら、米共和党が債務上限問題で歩み寄りの姿勢を示したことで、週後半にはリスクオンとなり小高く推移した。なお、RBA理事会では先月に国債の買い入れ額を引き下げ、買い入れ期間を延長したばかりだったこともあり、市場予想通りすべての政策を据え置き。無風に終わった。また、隣国のNZ準備銀行(RBNZ)は市場予想通り0.25%の利上げを決定。政策金利を0.50%としている。

ZARはほぼ横ばいとなった。コモディティ価格の上値が重く週前半は弱含んでいたが、米国のデフォルト(債務不履行)リスクが後退したことで週後半は買い戻された。なお、南アでは再び電力の負荷制限が行われている。(了)